



# 千葉労働新聞

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番  
(公) 千葉 (22) 7207 番

90.1.26 No. 3151

# JR 千葉支社は革マル永島を擁護するのか! (上)

## 事実はこのようだ!

日刊三三四五号(一月十三日付)  
で既報のとおり、JR千葉支社当局は、千葉運転区のJR総連・革

マル分子永島則之を未だ擁護し続けている。

### ① 出発点呼中、職場放棄

暴力行為、職場放棄

一月九日、千葉運転区一七四作業(九時四三分出勤)の乗務予定であった運転士が病欠となったため、永島は特休呼び出しに応じ、出勤した。

永島の出発点呼中、一日勤務明けの運転士が十時からの枠内訓練に間に合わなくなるため、当直助役は、途中で退区点呼をとり、枠内訓練に参加させた。

永島は、突然このことに腹をた

永島が激しく掴みかかっていたため、首席助役、総務助役が制止に入ったが、永島はこれにも従わないため、当局はモメながら永島を当直脇の会議室に押しこんだ。しかし永島は、会議室のなかでも、首席助役をはじめ三人がかりで抑えようとする当局の制止に従おうとせず、「オレは頭にきてい

て、当直助役と口論、当直室から出ていってしまったため、当直助役は後を追いかけて制止しようとしたところ、永島は、携帯時刻表を投げつけ、「ふざけるんじゃない、このやろうオレは帰る」等

大声で叫びたて、当直助役のエリ首をつかみふりまわしたのである。(この時当直助役の上着のボタンが飛んでいる)

### ② 会議室でも暴力

る、バカヤロー、オレは帰る」等繰り返して大声で叫びたて、かつ運転区中に響きわたる大音響(机などを蹴とばしている音か?)をたてて五分以上も暴れまわった。(会議室のすりガラスを通してでも何とか抑えようとする当局をふり払って暴れている様子がわかるほどであった)

この日、「通過未遂事故」で、会議室での日勤務を命じられていた運転士が、この時会議室に入ろうとしたが、入れない状況であり、その指導にあたっていた指導助役も、仕事の道具を持って会議室の外に出て居るしかない状態であ

あった。また、後で会議室に入ると、中の机の配置がガタガタになっていた。当局は、この過程のなかで、永島に乗務させることは不可能と判断し、指導員に一七四作業の乗務を命じている。

### ③ 再び「出勤」、

仕業途中から何もとがめられることなく平然と乗務

十三時三〇分頃、永島が再び「出勤」、当局は一七四作業の途中(十四時四六分幕張駅発、四〇二(三M)から乗務させる。

十七時三〇分頃、永島は乗務からあがってきたが、当直をはじめ

助役らは、誰も永島のところへは行かず、十八時〇二分、退区時間

になると通常どおり退区点呼をとり、事情聴取や面談すら行わず永島を帰した。その後も永島は、現在まで何もとがめられることなく乗務を続けているのである。以上が経過である。この経過は、一部始終を多くの運転士が見ている隠しような事実である。

## 団交で革マル永島を全面擁護

動労千葉は、一月十二日、団体交渉の席上、この事態について当局に追及した。ところが、当局は驚くべきことに、すでに事件から三日間がたっているにもかかわらず、「勤務変更ができていたかどうかかがネックになる」(?! )」ど

ちらに非があったかわからない(?! ) 「事実関係がわからない」(?! ) 等苦しませの答弁を行い、永島を全面的に擁護したのである。さらに現在(一月二四日)に至るもなお「事実関係を調査中」などと称して擁護し続けている。